

ロシア生活

情報文化学科 2年 金塚孝亮

最初は、留学に行くかどうか悩んでいました。お金も大丈夫かどうかの心配もありましたが、何より一人ではないですが、しっかり生活を送れるのかどうかの不安が一番大きかったです。しかし、このような長期間の留学はあまり経験できることではないですし、人目を気にすることが多かったのでそこを少しでも変えることができるかなと思い、派遣留学に参加しました。

ロシアは、当たり前のイメージですが、8月あたりでも寒いと思っていましたが、半袖でも過ごせるほど暖かかったです。まだ暖かい気候の9月ごろから授業が始まりました。初めの方の授業は日本人だけでしたが、緊張で発言などは全然できませんでした。特に大変だったのはロシア語の長文です。見たときはできるかの不安でいっぱいでした。しかし、回数を重ねていくごとにだんだんと単語を覚えていき、訳すのが早くなるのを実感できました。歴史や日常会話の授業がありましたが、その二つの授業でパワーポイントを使い歴代の統治者の紹介や自分の国の有名人を紹介するなどの授業もあり、楽しかったです。

9月の中旬からは、それぞれクラスに割り振られ、他の国から来ている留学生たちと勉強することになりました。日本人だけの授業よりも最初のころは緊張しており、あてられたときくらいしか発言できなかつた気がします。しかし、徐々に一緒に授業を受けている人たちと仲良くなるにつれて、授業内の発言が増えていくのを感じました。

ほかの国から来た留学生と仲良くなり、休日には、その留学生のうちの一人の家に招待をされました。15人くらい集まって、スポーツをしたり、ご飯を食べたりしました。日本では大人数を招待するというのはあまり経験したことがないので、文化の違いを感じました。

休日はそれだけでなく、一緒に留学に来た日本人と街の方にバスで行って、散策したり、買い物をしたり、お昼や夕飯を一緒に食べたりして楽しみました。

夕飯などは、自分たちで作ることが多かったです。寮から歩いて5分ほどで学校につきますが、朝などは授業が早く始まるので自分たちで作ることは平日にはしませんでした。部屋は、二人で一部屋ですが、二人で一緒に作ることもあったり、一人の場合もあったり、数部屋の人でカレーやシチューを作ったこともありました。

ロシアでは、いろいろと大変なこともありました。多くの人たちに助けってもらったり、手伝ってもらったりもしました。そのおかげでロシアでの生活はとても充実し、楽しい日々を送ることができました。いつかはわかりませんが、またロシアに行きたいと思いました。